

法隆寺現地案内学習感想文

- 事前学習では、法隆寺の色々なことを知ることができたのですが、今回の実際の体験でもっとたくさんを知ることができました。もちろん、英語のコミュニケーション学習についてもです！！まず、金堂の近くへ行って、金堂についての説明をしました。金堂の中でたくさん像を見て、写真で見たときと感じたものが全然違いました。一つ一つの表情の違いがあって、言葉では表せないけど、実物でしか味わえないものがありました。

小学6年生のときに、一度学校の学習で法隆寺の中の方まで入ったことがあるのですが、今回は法隆寺についてより詳しく勉強してから入ったので、そのころの人々の思いなどが伝わってきたような気がします。奈良時代のものなどがあったりして、それには本当に驚きました。その時代を象徴するものがあったので、色はあせてしまったものの、形は今もそのまま残すということは、日本人の物を大切に作る心がそこにあらわれていたのだと思いました。1000年も昔のものが目の前にあるなんて、本当に信じられない気持ちでいっぱいでした。

法隆寺の中では、アイセスさんがとても分かりやすい説明をしてくださったので、本当にためになりました。まず、金堂と五重塔の説明をアイセスさんにしていただいたのですが、日本語で説明していただいても、英語で説明していただいても、本当に分かりやすかったです。自分たちが、ガイドブックの説明を読んだ後、その説明にびったりな補足説明などを教えていただきました。あんなに難しい金堂や五重塔の説明を分かりやすいように工夫して、英語で説明できるなんて、本当にすごいと思いました。私達に分からない英単語を簡単にして説明していただいたり、本当に、アイセスさんの英語の工夫の仕方には、驚くばかりでした。

英語でのガイドは、2組させていただきました。1組目は、休憩所で2人の中国人と出会い、英語を話すことができるみたいなので、ガイドさせていただきました。本当に緊張して、頭が真っ白になったのですが、落ち着いて発音に気をつけて読みました。そうしたら、読んだ後に、「Good!」と言っていて、本当に嬉しかったです。班のメンバー3人全員に一言コメントをいただきました。とても明るくて、優しく、最後には握手と写真撮影までしていただいて、本当に嬉しかったです。2組目は、帰る間際に、フランスのパリから来られた2人の方にガイドさせていただきました。自己紹介をして、ガイドをさせていただくと、「きちんと理解できたよ」とおっしゃってくださいました。

法隆寺から役場に帰るとき、アイセスさんにコミュニケーションの大切さを教えていただきました。英語が文になっていなくても、英単語だけでも伝えると、ずいぶん違うそうです。あと、もし緊張してしゃべれなくなっても、とにかく笑顔で相手の目を見て話すと、自分の言いたいことが伝わるそうです。

今回の学習で、普段の英語とは違うものをたくさん学びました。飛び入りでの参加でしたが、行って本当に良かったです。

- 私はアイセスさんと会ったことがないので、どんな方なのかなあとまず思っていました。すると、松尾さんは優しく、とても良い方でした。始めに法隆寺に行ったときに、案内図を見せてくれて、「赤い色の部分は国宝だから、ナショナルトレジャーって言うんだよ。」と、外国の方に説明をするときのコツを教えてもらいました。今まで、法隆寺に来て、何となく通り過ぎていた案内図でも、こんな教え方があったんだあとと思いました。

まず、Main Hall（金堂）に入った時、ドアの部分をさわって、「つぎめがないでしょ。」と言われました。これは私も知らなくて、とてもビックリしました。他にも国宝である世界最古の食堂を見たり、私が思っていたよりとても小さい像であった九面観音立像（Nine-Headed Kannon）を見たりしました。

また、聖霊院では、自分で英文を作って、「ここには13世紀に作られた聖徳太子像があります。」とオリジナルで作って言いました。オリジナルで言うのはとても頭を使うけど、ガイドブックを見ないので、相手の顔を見て話せるので、ちょっとガイドらしくなったかなあと思いました。やっぱり今までのように紙を見ながらだと棒読みになってる気がして、相手の顔を見て、ちゃんと伝わっているだろうかとか、聞こえているだろうかなどを見ていきながら話すことが大切だなと思いました。

そして、一通り見終わり、休憩していたら、後ろに中国人の女性の方が座っていて、松尾さんが中

国語でその方に声をかけてくれました。その方は英語がしゃべれる方で、とても美人さんでした。私が、My name is Yuka Miyoshi. Nice to meet you. と言うと、その女性は、Oh! Nice to meet you too. と答えて下さいました。すごく緊張して、上手くしゃべれなかったかもしれないけど、相手の方がすごく笑顔で答えてくれて、しかも、ちゃんと聞き取れたと言ってくれたので、超嬉しかったです。初めて中国の方としゃべれたので、良い経験になりました。

もうそろそろ帰ろうとしていた時、フランス人の団体の人がいて、声をかけたけど、ダメでした。相手の方はすごく困ったような顔をしていたので、外国人の人ってこんな顔をするんだあとちょっと怖かったです。そして、もう2人のパリに住んでいる方に会いました。その方の名前はナニーという方とシルビーという方でした。にこにこして聞いてくれていたので、ちょっと安心して話せました。

こんな感じで一日が終わり、奈良の歴史を知れたし、外国人2組にも出会えたし、最高でした！！外国人の方と接する時に大事だと思ったことは、①顔を見て相手の表情を見る。②しゃべれなくても、コミュニケーションを取る。③笑顔で接する。ということでした。相手に積極的に近づく事は、勇気がいるけれど、しゃべるととても楽しい人だったりするし、良いことだと思いました。日本人だと体験できないことだなあと思いました。英語は難しいけど、深いなあと思いました。飛び入りだったけど、参加して良かったです。

- ・ 僕の班のアイセスさんは、松尾さんでした。役場から法隆寺へ行く道の途中で、「英語は好き？」とか、外国人をガイドする途中の会話は「Where are you from?」「What's your name?」などを使うといいよなどと親しく話しかけてくださったので、緊張していたのが少し和らぎました。法隆寺に着いたら、法隆寺の全体の地図の看板の所へ行って、外国人を案内するとき、どこに行きたいのから聞いて、地図に書いてある国宝は「national treasure」というなどと、看板など、ある物を利用して説明するといいと教えてくれました。

最初は金堂に入って、壁画や釈迦三尊像などを僕たちに説明してくれました。アイセスさんは、いろいろな資料や写真などを見せてくれました。金堂で英語の練習もしました。次に五重塔に行くと、塑像群を見ました。そこでも写真を見せてもらい、すごく丁寧に説明してもらいました。そして、大講堂に入り、ユネスコの登録書を見ました。そこのおみやげ屋で外国人に何か買うか聞くときは、「Would you like ~」を使って、「Would you like to buy something?」などと聞いてあげると良いと教えてもらい、そこを出てからすぐの所にある鐘楼は「bell house」ということも教えてもらいました。それから、大宝蔵院へ行き、九面観音立像、百済観音像、玉虫厨子など、いろいろなものを資料を使って説明してもらいました。九面観音立像は、思っていたよりとても小さかったです。アイセスさんは本物の死んだ玉虫を持っていて、見せてもらい、こういう小道具を使うのもポイントだと言っていました。そこを出て休憩所で中国人と会って、少しだけ中国語のできるアイセスさんが、英語でガイドさせてもらってもいいか聞いてもらって、「いい」と言ってもらったので、そこでガイドブックを使って説明させてもらいました。握手をして、写真を撮って、その中国人と別れました。

もう役場に帰ることになって帰る途中、中門の所でフランス人でパリから来た人に会って、中門の説明をさせてもらい、別れて役場に戻りました。

アイセスさんの話はすごく上手で聞き入ってしまい、途中で英語の勉強もでき、すごく良かったです。小学校の時、法隆寺の有料の所も行ったけど、やっぱり少しでも勉強していくと、小学校の時と全然違う見方ができました。アイセスさんは英語もできるのに、中国語も少しでき、すごくカッコいいなと思いました。外国人のガイドは2組もできたので、すごくラッキーでした。緊張したけどいざしゃべってみると、結構話すことができ、すごくいい経験ができ、楽しかったです。

- ・ 私は、この「法隆寺案内学習」に行くかどうかを決めるとき、迷わず行くに丸をつけました。なぜなら、事前学習の時、アイセスさんと会話するのが楽しかったからです。また、事前学習でアイセスさんとして私達についてくれた加藤さんは、英語を話すことを怖がらずに、思い切って話せばいい。英語の会話は、全ての英文が分からなくても、単語を理解できたら大体の意味が分かる。と教えてくれました。また、事前学習の最後に、アイセスさんの代表の方が、英語は楽しむことが一番大切と教えてくれました。なので、私は法隆寺現地学習に行こうと思いました。

いざ法隆寺に行ってみると、どんなアイセスさんがついてくれるか、英語でちゃんと話せるかなど、不安でした。でも、今回アイセスさんとして一緒に法隆寺を廻ってくれた瀬戸川真理子さんは、とても優しい方で安心しました。最初に、法隆寺の歴史についてガイドしたときに、真理子さんはたくさ

んのアドバイスをしてくれました。それは、自信を持って話す。相手の顔を時折見る。せっかく実物が目の前にあるのだから、手で指す。英語で全てが表現できないなら、身振り手振りで表現する。など、他にもたくさんありました。最初は、体を使っての表現は恥ずかしかったです。しかし、真理子さんが私達の英語をほめてくれたので、だんだん自信が持てました。最後の方になって、「外国の人と会えなかったですね。」などと話していたら、前から外国の人らしき女性が歩いて来ました。私達は今回の目標の『外国の人に英語で案内する』ことができました。その方はシャンハイの方で、私達は一番最初に真理子さんにガイドした法隆寺の歴史についてガイドしました。外国の人に英語を話すのは、とても緊張しました。でも、その人は一文一文言い終わるたびに相づちを打ってくれました。とても親切な方で、私達も緊張したけど、思い切って話すことができました。それで、外国人と話すという目標を達成できて、現地案内学習は終わりました。外国の人と話せたことは、とても貴重な経験でした。学校の英語の先生やTTの先生達と英語で話すのとは違う緊張感がありました。外国の人は、話し手の目をずっと見て、相づちも打ってくれるなど、コミュニケーションを大切にするとおっしゃっていました。

私は元々英語に興味があったので、今回のこのたくさんの貴重な体験でさらに興味が高まりました。それに、この学習をする前と後では、英語を話すことへの思いが変わりました。する前は、英語を話すことは照れくさいし、恥ずかしいなど持っていたけど、学習をするうちに、英語を話すのが楽しくなってきた、外国の人と実際に話したときは緊張したけど、とても楽しかったです。事前学習のときアイセスさんが言っていた「英語を話すとき一番大切なのは楽しむことだ」ということが分かったような気がします。私はこの体験をきっかけに、英語をもっと頑張ってみようと思いました。

- 事前学習の時に班に来てくださった高橋さんが、とても気さくな方で色々話してくださったので、アイセスさんに対する緊張は全くと言っていいほどなかった。ただ、どんな方々なのかなあという期待にも似た感覚だけがあった。まず役場に行って、アイセスさんの自己紹介の時に、班のアイセスさんがとても優しそうな方で嬉しかった。実際法隆寺に行く途中でたくさん話しかけてくださって、本当にありがたかった。

アイセスさんはとても行動が早い方で、着いて写真を撮ってすぐ、動き出して、法隆寺の説明に入った。法隆寺はちらっと見ただけじゃ分からない細かい部分を見れたり、今まで知らなかったことまで知れて、本当に楽しかった。今思うと、本当に貴重な体験だったし、すごく楽しめた。後半では、上海から来た女性に声をおかけすると、快く受け入れてくださって、私達のつたない英語での説明をにこやかに聞いてくださった。実際に外国の方に話すのは、少し緊張したけど、滅多とない経験に嬉しさが大きかった。できることならもう一度したい。そう思うくらい本当に楽しく有意義な時間になったと思う。そして、事前学習と案内学習の両方をして思ったのは、やはり英語を話すのは楽しいし、好きだということ。で、「書く」のは苦手だと思った。「書く」のも克服して、英語自体が好きになれるように努力しようと思った。

- 私は最初、案内学習で外人さんと話したりできるのかなあと不安でした。でも、アイセスさんの瀬戸川さんに会って、優しそうなので安心しました。瀬戸川さんは「まりちゃんって呼んで」と言って、私達に優しく接してくれました。でも結局瀬戸川さんと呼んでました。(恥ずかしくて笑)

この案内学習は、事前学習とは全然違いました。事前学習は教室でやったので、やっぱり「勉強」という雰囲気でした。結構日本語でしゃべったりしていました。でも、案内学習は法隆寺でしたので、「勉強」というよりは、体験でした。そして、実際瀬戸川さんを外人と見立てて話すとき、とても緊張しました。つかえつかえで、とてもへたくそだったと思います。私は最初、ガイドブックだけを見て話しました。瀬戸川さんは、「相手の目を見て伝えようとするのよ」と言ってくれました。確かに、紙を見てしゃべっていたら、相手に伝えるんじゃなくて、ただの解説になってしまいます。なので、私はなるべく目を見て話そうと心掛けました。だんだん話しているうちに、緊張も解けて、だいたい楽しく話せるようになりました。思えば、ガイドブックを覚えてくればよかったなあと思います。

五重塔や夢殿について英語で話しました。読んだり、国宝を見ているうち、改めてすごいなあ！！と思いました。こんなすごいものがある町に住んでいるなんて、自分はなんて幸せなんだろう！！と感じました。外人さんがわざわざこんな田舎に来るんだろう？と今まで不思議に思っていたけど、わざわざ訪れる意味が分かったような気がします。とくに、夢殿にある救世観音と他の展示物がすごかったです。すべて一本の木からできている像がありました。像の耳に付いている耳飾りも木でできていて、動くそうです。歴史にも感動したけど、昔の人がもっていた技術にも感動しました。救世観音

は大きかったです。昔の人々はそれを神だと拝んでいたんだなあと思うと、すごい感じがして、今私達がそれを観光してるんだなあと思うと、不思議な感じがしました。これからもこの世の中を見守ってほしいです。あと、玉虫厨子もすごかったです。9000枚の玉虫の羽が使われているそうです。昔はどれだけ光り輝いていたんだろうと想像してみました。でも、今はもう黒ずんでいて、切ない感じがしました。あと、羽を取られた玉虫はちょっとかわいそうです。

そして、私達のグループはラッキーなことに、本当の観光に来た外人さんと会うことができました。上海から来た女の人で、私のたどたどしい英語を聞いてくれました。聞いてくれているとき、「うん」と何度も何度も相づちを打ってくれました。そして、ずっと私の目を見ていてくれました。瀬戸川さんの言ったとおりでなあーと感じました。目を見ないと、本当の気持ちは伝わらないんだなあ。だから、私も読みながら、できるだけ目を見て話しました。大切なことは、英語がぺらぺらしゃべれることじゃなくて、相手に伝えようとする気持ちと、その気持ちを表に出すことです。言葉は違うけど、気持ちが一つになったなあと話しているときに感じました。別れるとき、女の人が「センキュー」と言ってくれたとき、とても嬉しく思いました。そして、この町にある素晴らしい世界遺産を守り、全世界の人に知ってほしいと思いました。役場北庁舎に帰ってきたとき、瀬戸川さんが、「最初よりずっと上手くなってたよ」と言ってくれました。本当に案内学習に来て良かったです。もっと英語が話せるようになって、もっとたくさんの人に法隆寺の良さを伝えたいです。その前に、もっと英語を勉強したいと思います。

- 今日の法隆寺学習では勉強をし、たくさん思い出ができました。始めのアイセスさんの紹介では、この前の学校でのアイセスさんと同じだったので、とても話しやすく、緊張をあまりしなかったです。法隆寺学習では、英語を話しながら、法隆寺の歴史などを聞きました。その中でも僕が一番印象に残った話は、五重塔の中にある扉です。この扉は高さ2m、横1mぐらいあるのに、木材一枚だけでできています。学習では、法隆寺の中には避雷針がたくさんあることです。今日はとても楽しくて、とても疲れて、とても嬉しくて、良い思い出ができました。
- 僕はこの法隆寺案内学習で、英語で法隆寺について案内することの難しさを学びました。ガイドブックに書いてある事は、その建物や像のほんの一部の事しか説明していなくて、詳しいことはアイセスさんが教えてくれて、とても役に立ちました。法隆寺に行くのは、6年生の時に行ってから、ほとんど行ったことはありませんでした。この機会に法隆寺に行けたことも嬉しいです。小学校の時なので、法隆寺にあまり興味がなかったけど、中学生になってから行ってみると、なかなか楽しかったです。英語で案内することはとても難しく、本当にガイドするとなるとすごく心配でした。実際に外国の人と一度も会えませんでした。外国の人と会っている人もいました。所にもよるかもしれないけど、外国の人は英語をすいすい話していると思うので、僕たちの話している英語は、あくまでも日本語で言うと、カタコトの日本語を話しているのと同じだと思う。でも僕は法隆寺の良さをカタコトの英語でも知ってもらっただけでもとても嬉しいです。海外からはるばる斑鳩の法隆寺に来てくれることは、僕としてはとても光栄です。英語を実生活に活かすことも大切だと思いました。実生活で英語を使う機会はあまりありません。でも、斑鳩に住んでいる私達なら、いつかは外国の人から英語で法隆寺への行き方を尋ねられるかも知れません。その時は英語の授業で習った英語を使って説明できると思う。法隆寺は日本の中で観光として訪れる場所としては上位にいると思います。でも奈良、ましてや斑鳩に住んでいる人にとって、法隆寺はとても身近なものであって、そう珍しいわけではありません。なので、地元の人が行くのは少ないと思います。でも、法隆寺に展示されているもの、そこにある建物はとても興味深いものばかりでした。玉虫厨子はとてもきれいだったと思います。なぜかという、それはそこに置いてあったサンプルです。玉虫の羽はとても神秘的で、見ていてとても感動しました。その他にも仏像や像を見ているだけでも、とてもいやされました。総合的に見てみると、英語でコミュニケーションをするという事は、国際的な交流ができるということです。それはとても大事なことだと思います。それは将来とても役に立ち、一流の企業などに就職したときに、外国の人と話す機会があると思います。その時に、中学、高校で習った英語を使えるだけでも十分だと思います。
- 法隆寺には2、3回行ったことがあるけど、案内学習で見て学んだことがたくさんあった。例えば、五重塔の中の粘土でできた壁画のようなものは、「釈迦が死んで、それを周りの人が見て泣いているもの」「釈迦の弟子が仏教について話しているのを周りの人がありがたそうに聞いている」といった何か意味のあるものだったのが分かりました。それを見て、あの中に入っているのはちゃんと人の形

をしていたというのも見つけました。

金堂では4つの像と聖徳太子の母親に造った像を見ました。その中の一つの像は本物ではなくて、レプリカだったそうです。本物は中国かどっかの博物館に展示されていて、返してもらえないからレプリカを使っているそうです。あと、五重塔と金堂の間の所にある灯籠のようなものは、誰がいつ何のため建てたかが書いていました。その時、アイセスさんから、昔の人達は寺の修理のために歩いて全国に行って、お金持ちから資金を集めていたそうです。さすがにこれは驚きました。

その次は講堂に行きました。ここも何度か来たことがあったけど、流してみるぐらいで、詳しく見たことがなかったので、大仏？が乗っているのははすの花とその周りの像は鬼の上に乗っかっているというのには驚きました。あと、ここでは昔僧の勉強会みたいなのがあったらしくて、ここで昔の人達が勉強や話をしているのを想像すると、何か変な気分というか、不思議でした。その次は、僧の家というか、下宿のようなものを見ました。その建物は2つあって、一つは偉いさんの僧が泊まる所と、もう一つは少し下の階級の僧が泊まる所です。2つの建物は道を隔てたところであって、段差がありました。上の階級の人達の所は少し段差の上の所であって、下の位の僧を見下ろすというか、そんな感じの所にありました。これはちょっと面白い建物だなと思いました。この法隆寺は、昔は超大きい大学のような感じだったそうです。

案内学習は事前学習より面白かったです。事前学習は場所を英語で言って、後からその場所の知識とか、建物について聞きました。それも楽しかったけど、実物を見ると、写真で見たのより思った以上に大きかったり、小さかったりで面白かったです。美術館も行ったけど、そこでも今まで知らなかったことがかなりあって、それが聞いて面白かったです。

・今回「法隆寺現地案内学習」に参加してみたかったその理由は、前回にアイセスさんが学校に来て、法隆寺の建物やその歴史などを教えてもらい、次はもっと多くのことを知りたい、もっとこのことを深く知りたいと思ったからです。

当日はまず法隆寺で集合写真を撮り、その後法隆寺の中へ入りました。そして、すぐに法隆寺を説明する英文を読みました。ちゃんと言えているかどうかの不安と恥ずかしさから、声が小さくなってしまいました。その時、「声をもっと大きくして話さない」と言われました。ここから自信を持って大きな声ではっきり言うと、多少間違っても伝わるということが分かりました。その後、金堂に行きました。金堂にはたくさんの仏像や壁画がありました。ここは一度焼失してしまったと聞いたので、もう聞いたら少し残念に思いました。その流れで五重塔を見ました。そこには東西南北から全て違う壁の彫刻が見えました。それは釈迦が死ぬまでの図のようで、釈迦は死んでから一億年後に生き返ると聞きました。それを聞くと、釈迦は世界的にすごい人なんだなあと思いました。ちなみに、五重塔は屋根が一番下と一番上では、一番上が一番下の2分の1の面積になっており、屋根の大きさが上の面と下の面では、下の面が大きく、その形は日本で一番かっこいい形がいいです。その後、色々な仏像を見て、法隆寺の廊下の下に行きました。その廊下はあるところで区切れていて、作られた時代が違うそうです。それが証拠に、廊下の上の部分を見ると、木の形が少し違うところがありました。それを見て、法隆寺は色々な時代の宝物の集まりだということが分かりました。廊下を抜けて、聖霊院の近くを通過して、大宝蔵院に入りました。ここには焼失前の金堂の壁画など、たくさんの国宝がありました。ここで一番心に残ったのは、玉虫厨子です。玉虫の羽根が一面にはっている状態は、見ることはできませんでしたが、少し羽根が残っていたので、作られた頃の姿が想像できました。玉虫はきれいだけど、玉虫厨子を作るために何千匹も殺したというのは、すごいむごい気がしました。この後、夢殿に行こうとしましたが、時間がなくて行けませんでした。なので、そのままアイセスさんと話しながら、役場北館に帰りました。

今回は法隆寺で学習した時間は結構あったみたいですが、とても時間が短く感じました。なので、時間があるときは法隆寺に来て、法隆寺の案内ツアーとかに参加してみたいと思います。また、自分のふるさとにはとても立派な寺があるので、他の県の人とかにそれを自慢したいです。アイセスさん、今回はありがとうございました。

・事前学習では読むだけで簡単だったけど、「法隆寺現地案内学習」は人のことを考えて読まなければならないので、大変でした。大きな声を出さないと相手に聞こえなかったり、できるだけ相手の目を見て話すとか、違う人とコミュニケーションをするのはとても大変だと思いました。

法隆寺の事は、僕が知らないことがたくさんありました。僕が一番すごいと思ったのが、「玉虫厨子」です。なぜなら、1400年前に作られたのに、今も少しだけ玉虫の羽根が残っていて、とても

感動しました。あと、玉虫を何千匹も殺して、玉虫の羽根を使い、作ったことです。他にも、一番古い建物は中門、二番目は五重塔、三番目は金堂、あと、「持増広多」と持国天、増長天、広目天、多聞天の覚え方も教えてくれたり、「五重塔の塑像群」の一つ一つを簡単に教えてくれました。その中で一番印象に残っているのは北面です。救世観音の話は、その救世観音は一人の男の人が何かをして、その男の人が急死したので、人々は救世観音の呪いやと言い、救世観音を白い布でぐるぐる巻きにして、夢殿に封印しました。明治時代にフェノロサと岡倉天心が日本中の像を調査して法隆寺に立ち寄り、救世観音を出せと言ったが、お坊さんは呪いがあると言って、なかなか持ってきませんでした。しかし、ある時お坊さんが持ってきて、その白い布を取ると、黄金に輝いていたのです。とか、色々な法隆寺の話をしていただいて、僕が全然知らなかった法隆寺の歴史が分かりました。英語でのコミュニケーションといういい経験ができたので、本当に楽しかったです。本当にありがとうございました。

- 学校の法隆寺の事前学習は、アイセスさんが1グループに1人ずつ入ってくださって良かったです。でも、その時は班の全員が緊張していて、あまり積極的に話せませんでした。事前学習は英語も話してくださったけれど、日本語の方が多く話してくださいました。僕は一回英語でコミュニケーション活動してみたかったし、法隆寺をもっともっと知りたかったので、法隆寺の事前学習に参加しました。中間テストが終わった日に実施されたので、とても大変でした。一つ僕は驚いたことがありました。それは、役場の会議室にアイセスさんと先生と生徒が集まっているのに、僕の隣には2人とも座っていなかったことです。だから、僕は3人分のチケットを持って、予定表も持たないといけないことになってしまいました。役場から法隆寺まで、アイセスさんと2人で色々なことを話しました。例えば、英語は好き？とか、外国に行ったことがあるんということなどを聞かれて、話しました。僕は外国に行ったことがないけれど、英語は好きと答えました。そして、僕の班のアイセスさんは、ヨーロッパなど各地に行ったことがあって、英語もたくさん話せると聞いていました。話している間に中門に着いたら、2人が先生と一緒に待っていました。僕は一人でアイセスさんの話を聞いて会話しているよりも、やっぱり2人、3人になった方が心強いと思いました。やっと体験学習が始まりました。最初は、僕の班は法隆寺ガイドブックの説明のときの声の大きさが小さかったけれど、アイセスさんに「もうちょっと元気よく読んだ方が、英語らしい発音になるよ。」と言われたので、4人の声が大きくなり、発音も英語らしく聞こえるようになりました。法隆寺の有名な五重塔について、アイセスさんが説明してくれました。五重塔は高さが31.5メートルもあります。真上から見るとすごく大きく見えます。場所を変えて少し距離を置いたところで見ると、下から上までが全部見渡せて、一番下の塔から順に幅が広がっていることが分かります。でも、1回五重塔は焼けているのに、なぜこのような立派な塔をまた作ることができたのかが、僕は不思議です。たぶんこの立派な五重塔がないと古い歴史が残らないと思ったから、もう一度再建したと思います。作る人も五重塔が焼けてそのままずっと再建しなかったら、法隆寺の五重塔を一生懸命造ったのと思うからです。僕は五重塔の形が気に入っています。平らな三角形を上から順に見ていくと、透き通っているような感じがするからです。

次に案内してもらって印象に残ったところは、中門の廻廊です。なぜなら、太い柱のエンタシスという柱があり、飛鳥時代の建築の粋を集めたものがそのままの形で残っているからです。一番端の廻廊から奥の廻廊を見渡すと、遠近法という奥行きがとてもきれいに見えるので、何度見ても飽きないと思います。場所によっては柱の大きさも違うので、じっくり見たら興味がわいてきます。

百済観音像という像も印象に残っています。なぜなら、この像はどの方向から見てもきれいに見ることが出来るからです。特に、足の下から体まではすごく細いので、それだけ見えやすいということです。

実際に法隆寺現地案内学習にいてみて、僕はちょっと英語が話せるようになったような感じがします。事前学習よりも僕は自分からアイセスさんに英語で話しかけるようになりました。まだ、そんなきっちりとしたコミュニケーションは取れなかったかも知れないけれど、少しでも話せて良かったです。

僕は事前学習と法隆寺現地案内学習のアイセスさんが変わったので、上手く緊張せずに話せるのか心配だったけど、普通に英語や日本語で話せたので、ほっとしました。結局、アイセスさんが変わっても、自分の勇気とやる気さえあれば、何でもできるのだと改めて実感しました。僕は大勢の人の前に立ったり、大舞台上で発表するという事は苦手だけど、これからは勇気とやる気を大切にして、英

語も含めてどんなことにもチャレンジしてみたいと思います。

法隆寺は小さい頃から何度も何度も見に行っているのですが、大体の知識は知っているけれど、今日の法隆寺の現地案内学習は、普段詳しく見ない所まで案内して、アイセスさんが見せてくださったので、法隆寺をより深く勉強できたように思います。

法隆寺は何といっても、日本最初の世界文化遺産に登録されたので、世界中で知られています。しかも、僕はその世界文化遺産の法隆寺のある奈良県の斑鳩町に住んでいるので、1回だけでもいいので、法隆寺をアイセスさんみたいに英語と日本語を使って、案内してみたいです。そのためには、外国に何回か行って、現地の人と会話ができることが大切だと思います。この法隆寺現地案内学習は2時間ぐらい時間があつたけれど、すぐ終わったような感じがしました。僕にとっては、とてもいい経験になったと思います。

- 私がお世話になったアイセスさんは加藤さんという方でした。法隆寺に向かう途中、外国人にあつたときに最初にいう言葉を教えていただきました。最初は「Good afternoon.」とあいさつするそうです。「Hello.」だと少し砕けた感じになってしまうので、それより丁寧な「Good afternoon.」の方が良いそうです。

金堂の釈迦三尊像は、高さが90cmらしいが、立ち上がった高さを予想すると、約180cmほどになって、聖徳太子と同じぐらいの身長になるらしいです。まるで聖徳太子を仏にたとえているようで、聖徳太子はそれほどまでにすごい人だったのかなと思いました。金堂の中の四天王を懐中電灯で照らしてよく見せてもらいました。四天王はよく見るととてもお洒落な服を着ていました。服の袖や靴にレースが着いているのも教えてもらいました。そういうレースなどが付いている服を当時も貴族などが着ていたのかと思いました。四天王はきれいな冠をかぶっていて、他の四天王の中でも法隆寺のものほど豪華なものをかぶっているのはないそうです。壁画も見ましたが、大きな絵だけではなく、上の方にも小さな絵が一面に描かれていました。その絵に描かれているのは「飛天」というそうです。金堂の中は色々なものがたくさんあつてすごかったです。金堂の外側の1階と2階の屋根の間に柱のようなものがあつて、それをつたって上がる (going up) 龍と下がる (going down) 龍がありました。教えてもらわないと気づけないような細かいものがたくさんあつて面白かったです。

上御堂にも行きましたが、そこにあつた四天王像は、金堂のものに較べると戦う準備ができているという感じで、とても勇ましく見えました。金堂の四天王像はまっすぐ立っていましたが、像の作り手の取り方で差が出てくるそうです。雰囲気は全然違って驚きました。釈迦三尊像も安置されていたので、お参りしました。祀られているのが釈迦三尊像だったので、「なむ釈迦三尊像」と言ってお参りしました。私は今までよく聞いた「ナミアムダブツ」が「なむ」「阿弥陀仏」だと言うことには、今まで気づきませんでした。

塔とはお釈迦様の骨を祀るところだそうで、法隆寺のあの五重塔もそういった役目があるそうです。それを聞いて気づきましたが、私は今まで五重塔が何のためにあるのかを考えたことがありませんでした。

大宝蔵院の夢違観音像は、たくさん装飾品をつけていました。胸のところにかけているものは、胸=チェストなので、「チェストレット」と教えていただきました。九面観音立像は思っていたより小さかったです。1本の木からくり抜いたりしながらつくられたそうで、すごく価値があるものらしいです。私は、法隆寺という建物があることだけでもすごいと思っていたのに、その中にさらにたくさんのもつとも重要なものを持っていると分かって、驚きました。玉虫厨子の1枚だけあるきれいなままの玉虫の羽根を、見せていただきました。一箇所見ただけでもすごく輝いてるなと思ったのに、あれが全体に使われていることを考えると、作られた当時はものすごかつたんだろうと思います。玉虫厨子の屋根の端は四方に広がっていて、これはかぶとの「しころ」に似ているので、その屋根のことも「しころ」と呼んだりするそうです。また、厨子の下の段には、漆で絵が描かれていて、それも世界最古だそうです。

百済観音はとてもスラッとして背が高かったです。百済観音も1本の木から作られたそうです。手の指先の表情がとても繊細なのだと教えていただきました。

外国人に会えたら話しかけようとみんな意気込んでいましたが、結局会えませんでした。それが少し残念です。ものすごく昔に建てられた建物や、すごく古い宝物などが、今もきれいに残っているのは、すごいことだと思いました。前から知ってはいましたが、実際行ってみると、本当にたくさんのもつがありました。昔は英語を学習する機会は、少なかつたそうです。せっかく今恵まれているのだ

から、このことをできる限り活かしていきたいと思いました。色々面白いことが知れて、2時間とても有意義に過ごせました。現地学習に行って良かったです。

- 近くに住んでも法隆寺ってあまり行く機会がない。だから、法隆寺について知ってることはそんなにない。名前とかも分からないし。行ったときに冊子の英文を読んでも、自分の言葉では何も説明ができなかった。普通に書かれていることを読んでいだけでは、あまり実感がわからない。自分の言葉で英語を喋れるようになりたい。

法隆寺に行くときは懐中電灯があった方がいいなと思った。それのおかげで玉虫厨子の中のかすかに残っていた緑色を見ることができた。普通に見ていたら、全然分からなかった。九面観音立像の頭の小さな顔も見ることができた。九面観音立像自体が小さかったから、他の顔は豆ぐらいの大きさだった。玉虫厨子の扉にも、小さな顔が一面についてあった。中にも隙間なく顔がついていた。他にも普段見えないようなものを見ることができて、良かった。

加藤さんには冊子に載っていないところも案内してもらった。案内する学習だったけど、ずっと案内をされる側だった。最初は案内の時間が2時間もある！って思ったけど、現地に行ったらそれでも時間が足りないくらいだった。細かく見ていくとこんなに時間がかかるんだと思った。改めて見たらすごいなあと感動した。一つの本を掘って行って像を完成させたり、粘土でまず体を作って、その上から服を着せていくとか、細かい地道な作業がいっぱいあった。全てのものに少しも手を抜いていない感じがかった。

外国の人とは出会えなかった。今はもう奈良にあんまり来ないって新聞に前書いてあった。東京とかばかり。もっと奈良に、法隆寺に来たらいいのにと考えた。勉強になったし、国宝を見れたし、奈良すごいって思えたし、楽しかった。

- 今日の「法隆寺現地案内学習」でたくさんのお話を学ぶことができました。事前学習のアイセスさんと今日のアイセスさんが同じ人だったので良かったです。私達は法隆寺に向かう途中、外国人にあったら何ていうか？という事を教えていただきました。まず、「Welcome to Horyuji Temple.」と言う。その理由は、これを外国人が聞くと嬉しくなるそうです。「Where are you from?」と聞き、そして、「May I tell you?」と聞くことです。外国人と話したいので、FさんとKさんとIさんと練習しました。でも、外国人は一人もいません…。一番嬉しかったことはアイセスさんに声が大きく、発音がきれいで聞きやすいと言われたことです。

暗唱大会に3年出場して良かったです。英語で話そうと思っていたのですが、思うように言葉が出ません。文の構成も単語も一応分かるができません…。「It was difficult for me to speak English.」フランス人のイケメンがいるって聞いたので、会いたかったのですが…いませんでした。みんながかっこいいって言っていました。

法隆寺に何度も訪れたことがあるガイドさんが付きっきりっていうのは、今まで無かったので、良かったです。私自身色んなことを学ぶことができました。像もあらゆる所から見ると、とても面白いです。服や靴飾りなど…。一番びっくりしたのは、「Tamamushi Altar」です。まさか玉虫の羽根が入っているとは…。昔のことなので、全く見えないと思っていたのですが、電気で照らすと見えました。玉虫の羽根は本当に気持ち悪いです。マジで恐ろしいです。

結局最後の最後まで、外国人には巡り会えませんでした。次どこかで見かけたら、絶対「Speak?」いや「Talk」します。早く話したいです。今日は本当に楽しかったです。

- 私は事前学習と同じ小西さんと一緒にガイドしました。始めは全然外国人はいませんでした。たくさんのお話を聞きました。事前学習とは違って、本物を見ながら教えてもらったので、「スゴイ」って思いが強くなりました。しばらくして中国人と会いました。中国人はとても美人な人がいました。熱心に聞いてくれました。その後、色々な壁画や像を見ました。一番印象に残っているのは、玉虫厨子に使われている玉虫の羽根が付いているのを見たことです。ライトを当てると、きらっとそこだけ光っていて、きれいでした。百済観音像も見ました。とても大きくて、スタイルが良かったです。1回外に出たのですが、入口近くに外人がいたので、もう一度中に入ってガイドしました。外人の人達は、みんな背が高くびっくりしました。夢殿に行く途中、また中国人に会いました。「写真を撮って」みたいなジェスチャーをされたので、写真を撮りました。「ハイチーズ」って言って撮ったら、「チーズ？」とすごく笑われました！夢殿には残念ながら外人はいませんでした。夢殿の雰囲気はとってもかわいい感じでした。帰り、岸本先生が迎えに来てくれて、一緒に帰りました。帰っている途中、またさっきの中国人に会ったので、MちゃんとRちゃんと「ハイチーズ」ってやって、バイバ

イしました。とっても楽しかったです。英語は苦手だけど、好きになりました。

- ・ 私は最初不安でいっぱいでした。でも、私の班の担当だった小西さんが分かりやすく説明してくださったので、不安も少しずつ無くなっていきました。法隆寺に行ってみて、こんなに身近にあった法隆寺のことが、全然知らないことばかりで、とても勉強になりました。英語でのコミュニケーションは、最初は中国から来ていた人達でした。初めてだったので、上手く喋れませんでした。でも、中国の人達も優しく、真面目に聞いてくれていました。とても嬉しかったです。そして、次に会ったのがフランス人の人達で、しっかり話せなかったけど、真面目に聞いてくれました。外国の人達はみんな優しい人ばかりいるんだなと、改めて感じました。この日はなかなか体験できないことをして、とても勉強にもなったし、また機会があれば行きたいなと思いました。
- ・ 私達はまず五重塔に行きました。そして、金堂に行きました。そのあと、大講堂に行きました。その柱はパルテノン神殿と同じつくりで、柱のまん中あたりがふくらんでいるということを知りました。シルクロードを通して、日本に伝わってきたそうです。そして、そこで中国人の美人な人を見つけたので、英語で五重塔の説明をしました。すごく緊張しました。その後、色々なところを回っていると、大宝蔵院でフランス人のパリから来たというイケメンの人がいたので、また英語で説明しました。

私は将来留学する予定なので、英語は勉強していた方が良くと思うので、頑張りたいです。この法隆寺現地案内学習でいっそう留学してみたいという思いは強まりました。外国人の方達はとても気さくでいい人達ばかりだったので、すごく楽しかったです。

- ・ 英語の現地案内学習疲れしました。といっても、疲れよりも楽しかったという方が多いんですけど。3年生になって急に英語が好きになったような気がします。今までの文法で文を作って話して、それを理解してくれる人がいるのは嬉しい。しかし、まだまだのようです。現地案内してくださった人(名前を忘れてしまった)はもう考えていることが口からすらすらと英文で出てきて、これはすごいと思いました。この人は1授業300円の英会話教室に行っていたそうです。海外にも出て行かれたそうです。私はもっと英語を喋れるようになって、海外に出て行きたいです。今思い出しましたが、私の中学1年時の英語力はこんなものでした。「マイシスターイズビッグベン」当時ALTの先生だったあのニック先生もこれは理解してくれませんでした。それが今では、「My sister looks like Konishiki.」ここまでできるようになりました。これは今までの先生のおかげです。ありがとうございました。

話しに戻ると、私は海外に行っても通じるような英語を喋れるようになりたいです。かなり専門的なものを。どうしたらよいか考えているのですが、まあ今のところは教科書の意味を理解したら通じるだろうとまあそんな感じです。

法隆寺現地案内学習、やっぱりやったら違います。もうした後と前では全く違います。どう違うかという自信のようなものがつきますね。学校での学習と違い、新鮮で、英語で話せるというのはいいものです。本来英語というのは、こういう勉強の方法を撮った方が効率よくできるのではないかと思います。にしても、今回の現地学習は勉強になることが多かった。「積極的にできなくてもいいので、英語で」現地案内してくれた人(長ったらしいのでこれからはのっぽさんと呼ぶことにします)彼はこんな感じでした。玉虫厨子が展示されているところから出た所に、ラテン系のような大きい外国人のお姉さん?がいました。のっぽさんはちゅうちょ無くお姉さんに、おそらく「案内しましょうか」的な事を言いはりました。残念ながら断られましたが。私はその時、「もし案内しないといけなくなったら、どうしよう…」とか、「断ってくれ〜」と心の中でこっそり思っていました。でも、もし、あの外国人のお姉さんが「Please teach me about Tamamushi Altar.」みたいなことを言っていたら、また、今の私の英語への態度は変わっていたように思います。自分勝手ですが。

やはり、私には積極性が足りていません。自信をつけなければ。これは前もあったことで、ちょっと電車に乗ったときに、一緒になった外国の人に、「Where do you go?」と聞こうとタイミングをはかっていたら、結局、聞くことなく去ってしまった、という話なのですが、そんな感じですね、きっと。とにかく今回の学習で教わった一番のことは、積極的に話していくということでしょう。私の弱点があったので、まあぼちぼち直していきたいです。いい経験になりました。ありがとうございました。

- ・ 私は今日「法隆寺現地案内学習」に参加してみて、法隆寺のことを自分が全然知らなかったことを知りました。法隆寺に入ると中国人の団体がいました。だけど、私達は英語を話しに来たので、7班の担当役だった井村さんに外国人役としてガイドを聞いてもらいました。場所の前で一つ一つ説明し

ていったのですが、冊子を読むことに集中してしまっ、相手を見ながらちゃんと法隆寺について説明することができませんでした。逆に、井村さんがたくさんのお話を私達に教えてくださいました。私は法隆寺の近くに住んでいるのに、井村さんから聞くのは初めてのことばかりで、全然法隆寺を知らなかったです。なので、What is this?など、井村さんにパンフレットに載っていないことを少しでも聞かされただけで、全然言葉が出てこなくなりました。それに対して、井村さんは何でも知っていて、本当にすごいなあと思いました。途中外国人の方がいて、井村さんが聞きに行ってくださいましたが、英語を話さないと言って断られてしまいました。それから2人ぐらいいたのですが、時間が迫っていることと、私達が緊張して声をかけることができなかつたので、行ってしまわれました。今思うと、とても残念でなりません。井村さんは、「積極的に自分から話しかけていくことが大事」と言うことを教えてくださいました。私は、「きょう全然できないなあ。」と思いました。日本人は消極的になってしまうことが多いので、もっと積極的になるべきだなと実感させられました。

今回の体験を通して、私はもっと英語を勉強して外国人と話してみたい！！という思いが強くなりました。これからの社会では世界と関わる仕事がとても増えてきます。そのためには、外国人とでも、日本語をしゃべっているときと同じぐらいなめらかにきれいな発音でしゃべれるように、頑張つて勉強しようと思います。そして、英語が上手にしゃべれるようになり、もし機会があればボランティアのアイセスさんに入って、皆さんと一緒に法隆寺を案内したいなあと思っています。その時のために、法隆寺のことも勉強します！！今回は本当にいい体験になりました。疲れたけど、参加して良かったです。

- ・ 私は学校にアイセスさんが来たときは休んでいたもので、初っぱなからの法隆寺の案内でとても緊張しました。でも、みんなやアイセスさんが、「怖がらずに話すのが一番」と言っていたので、少し勇気を持って試みました。最初は法隆寺のエンタシスについて、「なんでこんな形なんですか？」と聞かれてしまい、すごくパニックになりました。ガイドブックには載っていないので、何と言ったらよいか分かりませんでした。そして、私は「I don't know. Sorry.」と答えてみました。すると、アイセスさんは「OK!それでもいいんだよ」と言ってくれました。アイセスさんが言うには、「知らないことを聞かれても、知らないならちゃんと分かりませんと答えた方がいいんだよ」と言っていました。私はなるほどそれでもいいんだと思つてからは、少し気が楽になったような気がしました。次に、聖徳太子について聞かれました。今度はガイドブックにも載っていたし、ガイドブックを見て説明しました。すると、アイセスさんに「ガイドブックを見て説明するのも悪くはないけど、ちゃんと相手の顔を見て説明しないといけないよ」と注意されました。そういえば、説明することに必死になりすぎて、「相手」がいることを忘れていたような気がします。こうやって思うと、自分が英語で話すというのはとっても難しいことだなあと思いました。でも逆に、私はあきらめずにもっともっと自分が積極的に話せるようにしたいと思います。法隆寺を歩いていても、なかなか外国人の人はいなくてあきらめかけていた時に、前に2人の外国人が！！私達が追いかける前に、アイセスさんがダッシュをしていて、少し驚きました。でも、すぐに私達も後ろを追いました。でも、その外国人の2人は、「英語は話せないの。それに時間がないわ」と言って拒まれてしまいました。ほつとがっかりしました。もうそれからは外国人に会うことなく、法隆寺を後にしました。ちょっとがっかりしながら帰っていると、「ごめんねえ。外国人にガイドさせてあげられなくつて」と言われ、アイセスさん達の優しさが伝わつてきて、本当にいい方々だなあと思いました。私も将来は別の形かも知れないけど、何か人のためになることができる人になりたいと思います。そして役場に戻つて、最後にアイセスさん達の感想を聞くとき、皆さんが「ガイドブックを見て案内するのはちょっと気になる」とおっしゃっていたので、次の世代の2年生達には、是非覚えてきてもらいたいと思いました。そして、私達よりももっともつとつかつこよくガイドして欲しいと思います。次に、2班ぐらいいが外国人と話せた！！と言つていて、ちょっと羨ましく思いました。なんか外国人の集団がいたみたいだったけど、運が無く、私達とは会えなかつたのが残念でした。でも、私達が住んでいる斑鳩町には、多くの遺産があります。だから、いつでもガイドをしようと思つたらできるのです。私達の斑鳩にこんな大切な貴重な場があることは、とても誇りに思つます。最後に、校長先生が「何より自分でこの活動に手を挙げたことが一番素晴らしい」と言っていたのを聞いて、とても嬉しくなりました。参加してとても良かったです。
- ・ 世界遺産を英語で学ぶ今回の学習はとても難しかったし、興味深いものでした。あの英文でもまだ簡単な方なので、もっと勉強しなければ理解できないと思いました。事前学習と較べて、現地でするとやっぱり少し緊張しました。アイセスさんはほとんど英語だったので、話している内容は難しい文

法や新しい単語などで、3割程度しか理解できませんでした。実際に法隆寺を訪れてみて、世界遺産を改めて実感したように思いました。アイセスさんの話では、ガイドブックには載っていない内容を英語で話していました。(内容は3割程度)英語でのコミュニケーションはあまりできませんでした。質問されてもよく分からない文法や単語で、受け答えができませんでした。英語は得意か苦手かと聞かれたら、どちらかという苦手なので、なかなか勉強が進みません。基本はできても応用ができなかったら意味ないので、勉強しようと思っても勉強できません。別に嫌いではないけど、応用問題でいつもつまってしまう。入試にも出るし、高校になればもっと難しくなるだろうし、英語が5教科の中で一番心配です。もう入試まで約4ヶ月半。この間にしっかりできるようになりたいです。

・ 実際に法隆寺を訪れて案内するのと事前学習とは全然違いました。どこが違うかという、事前学習では法隆寺のことを勉強したけど、あまり分かりませんでした。でも実際に行って案内すると、本物の前で少しは英語で喋れて良かったです。そして、法隆寺のことがすごく分かりました。例えば、金堂は693年に建てられて、世界で一番古い木造建築だということや、金堂の中には釈迦三尊像や薬師如来像、阿弥陀三尊像、四天王像があることがアイセスさんの話を聞いて分かりました。五重塔の作り方は、法隆寺だけで塔を見ていたら、すごくすごい作り方をしているなど分かりました。塔の高さは約34.1mもあるそうです。僕は小さい頃に度々法隆寺に行っていました。法隆寺の中のどこに行っていたかという、西円堂というところにお参りに行っていました。その時は鐘をつく音が気になって、わくわくしていました。

アイセスさんと話していて分かったことは、①英文や文法はめちゃくちゃでもいいので、とにかく単語さえ覚えていけば、口に出して言うこと②恥ずかしくらずに、はっきり大きな声で答えること③できるだけ法隆寺ガイドブックを見て答えること、この3つのことが分かりました。

僕は最初アイセスさんが何を話しているのか、全く分かりませんでした。でもだんだん聞いていくうちに、どんどん耳が慣れてきて、ある程度分かるようになりました。でも、アイセスさんが英語で質問してきたら、日本語では答えられるけど、英語では答えられませんでした。なので、いつかまた英語で話す機会があれば、英語で会話がしたいです。僕はどちらかという、英語はあまり得意な教科ではありません。リスニングがすごく苦手なので、何とかしてちょっとずつ点を取らなければいけないと思いました。

夢殿に行った時、聖徳太子などの秘仏救世観音像や聖観音菩薩像、行信僧都像などを見ました。これらの物を見てみると、とても不思議で神秘的な雰囲気が漂ってきました。法隆寺のことだけではなく、他のことについても話せたので、良かったです。例えば、アイセスさんの好きな食べ物について質問したり、好きなスポーツについて質問したりしました。アイセスさんの好きな食べ物は、メロンとぶどうでした。僕の好きな食べ物と同じだったので、面白かったです。好きなスポーツは野球と弓道でした。実は僕も弓道に興味を持っていて、高校に入ったら、入ろうと思っています。アイセスさんと色々なジャンルの話ができて良かったです。今回の体験はとても貴重で良かったと思います。法隆寺の内容を把握して、すらすら英語で外国人の人に話せるようになりたいです。

・ 実際に英語で質問をされて、大体の意味を聞き取って、英語で返事ができて良かったと思う。単語が分かってくると、TVで出てくる英単語や街の看板の英語などの意味が分かったりすると、とても楽しいので、これからも英語を積極的に勉強したいと思う。

実際に法隆寺を訪れてみると、すごいなあと思った。1000年以上も昔に今にも残る建物や壁画や像など、作った人の技術と知恵はすごいと思う。これからも奈良に残って行って欲しいと思う。今回の体験で、相手の英語を聞き取ったり、自分の英語を相手に伝えることの難しさを改めて感じた。でも、それ以上にコミュニケーションが取れることは楽しいと思えた。英語を使えることは、国際化が進む時代とても便利だし、違う文化を持つ人達と交流することができるので、これから英語を楽しんで学んでいきたいと思う。

・ 私達の班はまだまだ案内してあげると言うよりは、案内してもらっているに近かったです。(というか、ガイドしてもらってた!?)「この説明にはないけどねー」とたくさんのことを教えてもらいました。歴史が嫌いな私でも、「へーそうなんだ」と思うことばかりで、なんだかいっちょまえになった気がします。

最初、テストが終わってめんどいなーって思ってたけど、久々に前の人(加藤さん)に会ったら、あのとき楽しかったなって思いました。そしたら、少しずつ楽しみになりました。今回は、「私は外国人です」って言われて、あせっていたけど、結局いっぱいガイドしてもらいました。写真で「これ

は〜という感じ」で、私達が英語で説明した後に、教えてもらいました。私が一番興味深かったのは、五重塔の東西南北の方向から見れる彫刻です。特に北が気に入りました。釈迦（一番偉い人）は安らかに眠っていて、従者達は泣いたりわめいたりしている彫刻でした。その彫刻はすごく丁寧で、細かい表情まで表現されていました。法隆寺ができた時代にもこんな技術があったんだーと思いました。北側のやつは人気があったけど、見る事ができて良かったです。写真で見ると生で見るとは違うなあと改めて思いました。

次に興味深かったのは玉虫厨子です。ライトを当てると七色に光ってきれいでした。玉虫を一度家の近くで見たことがあるけど、虫だけではきれいだけど、色がきつすぎかなと思っていただけ、あの羽根からこんな物を作れるんやあと感動しました。つい最近、どこかの（忘れました）おじいさんが〇〇億をかけて玉虫厨子を復元したそうです。しかも、寄付したとか！！すごいです。今、秘宝展で公開しているらしいので、見に行きたいです！！

小川さんは私達に説明しながら、こういうことを外人さんに説明すると喜ばれるよ、などと教えてくれました。話をしながら、今までにこんな外国人と話した、とかフレンドリーに話してくれて、自分の国に来てくれと言われて行った、などという話を聞きました。話の中で、法隆寺とは関係ないけど、お地蔵さんの話をしてくれました。お地蔵さんは親より先に亡くなった子どもが、ちゃんと天国に行けるように祈って造られた物らしいです。私は石川でお墓参りをする時、お地蔵さんにもお供えをしていた理由が分かりました。この話をすると、外人さんは喜ぶらしいです。このように日本人でも興味深いことがあるのだから、外人さんも知りたいやろうと思います。だから、私ももっとたくさんを知って、それから、また何か機会があれば、ガイドをしてみたいと思いました。そのためにも、今下がりつつある英語の勉強を頑張ろうと思います！！

・ 私がなぜ「法隆寺現地案内学習」に参加しようと思ったのかということ、私は正直なところ英語が苦手です。書くのも聞くこともできないのですが、このような機会でも、英語を少しでも身近なものにしたいと思ったからです。また、事前学習で法隆寺のことをもっと深めたいと思ったのも、理由の一つです。事前学習で、アイセスさんのことも、優しい方々という印象が大きかったこともあって、そっちの不安はあまりしませんでした。でも、本番という不安は凄くあって、緊張していました。

私達の班の担当のアイセスさんは小川さんでした。とても優しく、温かく接していただいたので、緊張もほぐれて、のびのびと学習することができたなと感じました。英語や日本語を交えての学習だったので、今まで知っていたつもりでいたことも「そうなんだ！！」と思ったり、全く知らない場所、知識を初めて知ったこともたくさんありました。法隆寺の町に住んでいるのに、法隆寺のことを自分は何も知らないんだと思うと、とても恥ずかしい気持ちになりました。私達は普段像などといった物に触れる機会はなく、とても良い経験になりました。

色々な像を見ていくと、一体一体顔も表情も体つきも全く違うなと気づきました。中でも、五重塔の塑像群（Group of the Clay Statues）が私が一番印象深かったです。そこには、当時の勉強の仕方（弟子が師の話聞くこと）、釈迦の偉大さ、絶大な信頼があった様子を表現していて、仏教の深さや当時の技術や思想についてとても凄いなと感動しました。また、豆知識として、小川さんから四天王像（Four Heavenly Guardians）に行った時、4体の像の位置と名前を覚えておく方法も教わりました。東から、時国天、増長天、広目天、多聞天なので、それぞれの頭の文字を取って、「地像買った」と覚えるというものでした。とても覚えやすくて面白かったです。

私の父は、法隆寺などが好きで、よく写真を撮りに行ったりしています。家でこの体験のことを言うと、とても興味深く聞いてきたり、とても楽しそうでした。英語でのコミュニケーションだけでなく、家族内でのコミュニケーションも取れたので、とても良かったと思いました。

私の班は外国人と話すことはできませんでした。でも、歴史を深めるとともに、英語での会話をすることは貴重な経験でもあったし、また、これが国際的な活動なのかなと思いました。英語で日本の歴史・文化を外国の方に伝え、交流することは、これからとても大切になっていくと思います。なので、色々な面でも学ぶことができ嬉しかったです。これからもっと積極的に英語を勇気を持って話そうと思いました。アイセスさん本当にありがとうございました。

・ 現地案内学習をやって、今までの英語に対しての気持ちが変わりました。私は英語が一番苦手で、現地学習に行っても何も話せないと思い、始めはやめようと思っていましたが、今は行って良かったと思っています。実際に訪れてみて、どうやって案内したらいいのかな？！とか思いながら回りましたが、小川さんが凄く丁寧に教えてくれたので、今度英語がいっぱい話せるようになったら、

案内できると思います。法隆寺のこともいっぱい教えてもらいました。凄くいっぱい教えてもらったので、法隆寺のことがよく分かり、嬉しかったです。凄く楽しかったです。私は英語が嫌いでしたが、今ではちょっと好きです！！現地学習に行って良かったです。楽しかった☆